

サン介護新聞

第180号
令和7年2月号



高額療養費を段階的引き上げ

政府は医療費の支払いを一定に抑える「高額療養費制度」の見直しを正式決定し、自己負担の上限月額を2025年8月から27年8月まで段階的に引き上げる。薬の公定価格「薬価」を市場価格に近づけて引き下げ、25年度に国費で64.8億円圧縮することでも合意。医療費が膨らむ中、いずれも公的医療保険からの給付を抑える。合意には、生活保護費の特例加算を1人月千円→1500円に増額し、26年度まで続けることも盛り込む。実際に増額されるのは受給世帯の58%に当たる94万世帯。

現行制度の上限額は、年収などで5区分に分かれる。25年8月に5区分全てで上限額を引き上げる。26年8月には住民税非課税を除く4区分を三つずつに細分化し、所得の高い層の上限額を上げる。27年8月にも引き上げる。

現行の平均的な年収区分約370万〜770万円（の上限月額は約8万円。これを細分化し、最も高い区分となる「約650万〜770万円」の上限月額は27年8月に約13万9千円となる。

社会保障費が初の38兆円

政府は臨時閣議で、一般会計の総額が115兆5415億円となる2025年度予算案を決定。社会保障費や防衛費、国債（借金）の元利払いに於ける国債費が伸びた為、24年度当初から約3兆円増え過去最大を更新。税収も過去最大となる見込みだが、歳入の4分の1を国債に頼る厳しい財政状況が続いている。政府は予算案を来年の通常国会に提出するが、過半数割れしている与党が協力を求める野党との協議次第では、予算案に追加の施策を盛り込むなど修正を迫られる可能性がある。歳出は、全体の3分の1を占める社会保障費が38兆2778億円と、初めて38兆円を突破した。歳出改革で1300億円程度を圧縮したが、高齢化などにより5585億円増えた。

今月の1枚



「サザンカ」

ALS薬「トフェルセン」他を承認

厚生省は、米製薬企業バイオジェンが開発した筋萎縮性側索硬化症（ALS）治療薬「トフェルセン」の製造販売を承認。SOD1と呼ばれる遺伝子に変異がある患者が対象で、全体の約2%が該当。同日、近視の進行を抑制する参天製薬（大阪市）の点眼液「アトロピン」の製造販売も承認。近視進行抑制薬の承認は国内初。ALSは神経に障害が起き、筋肉がやせて徐々に体を動かさなくなる病気。トフェルセンは、変異したSOD1遺伝子が神経に有害なタンパク質を作るのを防ぐ働きがある。米食品医薬品局（FDA）は2023年に迅速承認し、日本ALS協会も早期の実用化を求めている。近視は眼球の形が前後に長くなり、ピントの合う位置が網膜より前になっている状態。アトロピンは瞳孔を広げる効果があり、子どもの斜視などの診断に使われている。低濃度の場合は副作用なく近視の進行抑制効果がある」と期待されている。



認知症への偏見を点数化

国立長寿医療研究センター（愛知県大府市）等のチームは、認知症への差別や偏見の意識を点数化して評価する方法を作成する。「認知症の人は知識が豊富」「話しかける意味はない」といった質問26項目を「いつも思う」「全く思わない」までの5段階で回答してもらい、認知症の人を敬遠する傾向などを判断する。認知症当事者や家族などの差別や偏見は治療の遅れや社会参加の減少につながるが、評価方法がいたる。

同センターの主任研究員は「認知症への負のイメージを克服し、当事者が排除されない共生社会を目指したい」と話してチームは、オーストラリアで開発された評価尺度を基に26項目の質問票を作成、インターネットを通じて20〜69歳の計819人に調査を実施。「もし私が認知症だったら屈辱的に感じる」などの質問に答えてもらい、認知症の人を避けたり尊重したりする傾向に加え、自分が認知症と診断されたらと不安に思う気持ちや、差別される恐怖心を測定できることを確認した。

電動車いす市場に熱気 デザインや安全性競う

日常の足代わりに活用してもらおうと、デザインや安全性を向上させた電動車いすが続々登場している。特に高齢者の外出をサポートするハンドル型電動車いすでは、新興企業の「WHILL（ウィル）」（東京）がスタイリッシュな見た目で売れ行きを拡大し、業界古参のスズキも安全機能を高めた看板商品「セニアカー」を投入。高齢化で成長が期待できる市場で、トヨタ自動車も参入するなど熱を帯びてきた。

デザインを展開し、この3年間で販売台数を20倍以上に伸ばした。2024年9月に発売した「モデルR」は駐輪場に保管できるサイズで、集合住宅の居住者にも選びやすかった。バッテリーは着脱式で、室内で気軽に充電できるのも特徴だ。

スズキは、約40年にわたりセニアカーを累計約32万台販売してきた。トヨタ自動車は23年に三輪タイプの「シーウォークエス」を発売した。



求人のお知らせ

当社では新しい仲間を募集しています。詳しくはQRコードをチェック！





2月の健康管理 ヒートショック対策！



節分が過ぎれば、明日は立春。暦の上では春ですが、2月は1年の中で寒さが厳しく、空気の乾燥がより一層気になる月です。寒いと体温が奪われ、血行も悪くなります。空気が乾燥すると、肌や喉・鼻の粘膜はダメージを受け、風邪、インフルエンザといった感染症にかかりやすくなります。何かとトラブルが起こりやすい2月、入浴や水分不足に対しても注意が必要です。

①ヒートショックに注意！

寒い冬の入浴には危険が潜んでいます。お風呂に入ろうと、暖かい居間から寒い浴室へ移動し、熱い湯に浸かると、急激な温度変化にさらされることになります。体には体温を一定にキープする為に、**暑いときには血管を拡張**し、体内の熱を放出しようとし、**寒いときには血管を収縮**し、体外に熱を逃がさない様にする仕組みが備わっています。血管が収縮すれば、心臓はより全身へ血液を送り出そうとするため、**血圧は急上昇**します。血圧が急上昇した直後に熱い湯につかれば、血管は拡張して**血圧は急降下**します。心臓や血管などに大きな負担がかかってしまいます。**血圧の急降下**は、**貧血**や**立ちくらみ**を起こしけがや溺水につながる恐れもあります。**ヒートショック**は、**心筋梗塞、脳梗塞、脳出血**など深刻な疾患につながりやすく、場合によっては、死に至るケースもあります。特に**高齢者**は影響を受けやすいといわれていて**高血圧・動脈硬化・糖尿**の傾向がある人も注意が必要です。

ヒートショックを防ぐには“**温度差を減らすこと**”です。暖房器具の設置、入浴前にお風呂のふたを開ける・シャワーをまく等蒸気で浴室全体を暖めておきましょう。1番風呂を避け、浴室床にマットやスノコを敷くことも有効。**お風呂の温度を38～40℃**くらいに設定する。食後すぐの入浴や飲酒後の入浴は避ける。家の寒いところへ移動するときには上着を羽織る。高齢者や心臓病の人の入浴中には、家族が声かけをするなどで対策しましょう。



②乾燥に注意！

空気が乾燥していると体内の水分の蒸散量が増加します。乾燥の影響といえば、乾燥肌や肌荒れなど皮膚トラブルもありますが、体の色々な部分に影響を及ぼします。体内の水分量が少なくなると、血行が悪くなり、心筋梗塞、脳梗塞などが起こりやすくなります。乾燥は筋肉の弾力も奪ってしまうため、寒さによる血行不良と合わさって、ぎっくり腰などが増える原因にもなります。喉や鼻の粘膜の乾燥は、免疫機能を低下させ、風邪やインフルエンザなど感染症の発症率を高めてしまいます。水分補給と保湿を心掛けましょう。

*花粉症の方は花粉対策にも注意しましょう！

おすすめ食材



【海老】
用がある食材で「腎」の「気」や「精」を補う作用があります。血行を促進する働きがあり、寒気を伴う風邪などの症状緩和に効果的です。
海老ニラ炒めがおススメ

2月は、立春、雨水(うすい)の2つの節気があり、厳しい寒さが続きますが春の兆しが見られる時期でもあります。冷えから体を守るのと同時に、身体を養い、エネルギーを蓄え、春に向けて体内環境をしつかりと整えていきましょう。体を温めるものを積極的に取り、「腎」の機能を補いましょう。「腎」と「精」は生命活動を支える「精」という、生命活動を維持するの特に大切なものが、あるとされていいます。「腎」が不足し「気虚」の状態になると、息切れ・食欲不振・体力低下・疲れやすさ・風邪をひきやすいといった不調が現れるほか、春先に飛んで来る花粉にも反応しやすくなります。1年間を元気に過ごすために、2月に「腎」を補い、「気」を大切に「精」を蓄えておくことが大切です。

今月の食養生



株式会社サンメディカル
SUNMEDICAL GROUP

(編集・発行)サン介護マッサージ営業部
神奈川県厚木市中町2-1-1 (コールセンター)046-401-1580

営業所 秦野・平塚・厚木・相模原・藤沢・横浜・川崎・大和横浜・沖縄 *横浜南営業所 ◀新規OPEN！

株式会社サンメディカルは「かながわSDGsパートナー(第6期)」に登録されました